

長野陸協 会報

平成25年10月31日
第150号

発行所 (一財)長野陸上競技協会
発行人 細田 完二
編集人 青山陸生・水谷 範久
印刷所 (株)プラルト

URL <http://nagano-rk.com/>
E-mail info07@nagano-rk.com

第97回日本選手権・第29回日本ジュニア選手権混成競技開催
平成25年6月1日～6月2日 於:長野市営陸上競技場

第97回日本選手権混成大会を終えて 大会実行委員長 伊藤 利博

2回目を迎える日本選手権混成競技大会は、昨年の反省を踏まえて、早い段階から準備を進めました。

まず、大会を行うにあたり二本柱となる、大会運営面と競技運営面の係を二本立てにして、大会運営面を内山先生が中心に陸連との折衝、プロ編成等を主に担っていただき、競技面では、玉城先生を中心として審判編成を含め当日の競技運営を進めていただきました。いろいろとご苦労もありましたが、車の両輪がうまく噛み合っただけでなく、内山先生の仕事の量が多少軽減されたのではないかと思います。又、審判員の若返りも長野陸協としては、革命的であったと思います。通常県下で行われている競技会では、現役を退いた方々をたよりにしなければ出来ませんが、全国的な大会となれば、若い審判員をピックアップして審判編成が出来た事は、活気があ



十種競技表彰 左から2位中村・優勝右代・3位音部選手

り、スタンドから見る観衆の目も審判員の動きに注目したのではないかと思います。

昨年は初めての経験という事で、競技運営面で、許される面もありましたが、今年こそは絶対にミスは許されないと臨んだ大会でありましたが、競技のスタートで、ピストルの回線の不具合により、約1時間の競技開始が遅れてしまった事実は、選手達に何とお詫びをしたら良いか、責任を感じております。事前の準備は、十

目次

- 1 第97回日本選手権・第29回日本ジュニア選手権混成競技開催 …… 表紙～③
- 2 平成25年度 第29回全国小学生陸上競技交流大会参加報告 …… ③～⑤
- 3 第66回長野県陸上競技選手権大会 フライングー発失格に関連するコメント …… ⑤
- 4 2013 東京国体 長野県選手団成績 …… ⑥～⑦
- 5 第2期決算 対前年度比較 …… ⑦

自己新 順位	第 97 回日本陸上競技選手権大会 (混成競技) 結果				第 29 回日本ジュニア陸上競技選手権大会 (混成競技) 結果			
	十種競技 選手名/所属	総合 得点	七種競技 選手名/所属	総合 得点	ジュニア十種競技 選手名/所属	総合 得点	ジュニア七種競技 選手名/所属	総合 得点
1	右代 啓祐 ウシロ ケイスケ スズキ浜松アスリートクラブ	7808	桐山 智衣 キリヤマ チエ 中京大学	5564	下司 剛久 ゲシ タケヒサ 関西学院大	6557	松岡 絵里 マツオカ エリ 大阪成蹊大	4921
2	中村 明彦 ナカムラ アキヒコ スズキ浜松アスリートクラブ	7723	竹原 史恵 タケハラ フミエ 長谷川体育施設	5417	荒谷 亘彦 アラタニ ノブヒコ 東京学芸大	6537	山岡 未与 ヤマオカ ミト 東大阪大	4829
3	音部 拓仁 オトベ タクミ 富士通	7381	中田 有紀 ナカタ ユキ 日本保育サービス	5356	栗原 彰理 クリハラ アキマサ 日本大	6416	澤田 珠里 サワタ ジュリ 白梅学園高	4775
4	東中 陽太郎 ヒガシナカ ヨウタロウ 中京大クラブ	7367	富山 朝代 トミヤマ アサヨ 東大阪市陸協	5233	坂本 憲哉 サカモト ケンヤ 中京大	6410	高橋 このか タカハシ コノカ 白梅学園高	4772
5	染谷 幸喜 ソメヤ コウキ TeamAccel	7333	春田 亜沙美 ハルタ アサミ 筑波大学	5102	城野 有希 シロノ ユウキ 国際武道大	6324	佐藤 静香 サトウ シズカ 新潟医療福祉大←小諸高	10位 4551
6	川崎 和也 カワサキ カズヤ 順天堂大	7196	高瀬 怜奈 タカセ レナ 熊本大	4961	柏倉 飛鳥 カシワグラ アスカ 東京学芸大	6195	大日方 紗愛 オビナタ サエ 中京大←文化学園長野高	13位 4122
長野 出身	三村 瑞樹 ミムラ ミズキ 東京学芸大←伊那北高	16位 6740	宮澤 セタ子 ミヤザワ ナツコ 信州大←長野吉田高	14位 4198	長野県出身者の出場無し		川上 美葉 カワカミ ミハ 国土館大←小諸高	14位 3910



分過ぎる位であっても良いのではないかという事を痛切に感じました。これらの反省を来年のために生かさなければと思っています。

天候にも恵まれて、2日間陸上ファンが競技場に大勢詰め掛けて大会を盛り上げていただき、右代選手がモスクワの世界選手権代表に選考された事が、せめての償いになったと思っています。

長野市陸協会員の皆様方のご協力をいただき、無事終了出来た事に心より感謝申し上げます。

大会運営担当

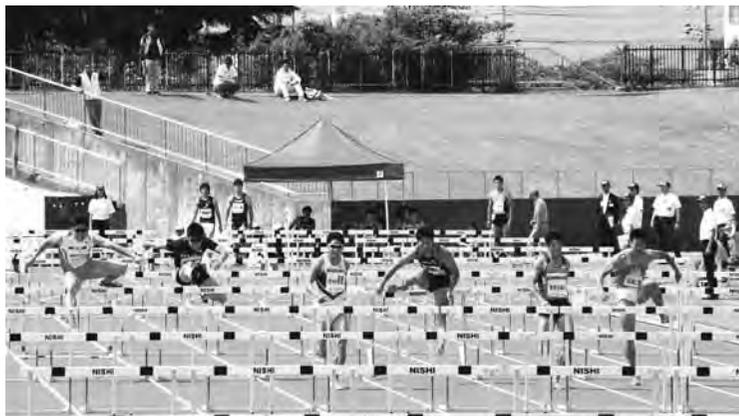
副実行委員長 内山了治

本大会の共催、後援、協力団体の皆様方はじめご指導ご協力を賜りました皆様方に感謝申し上げます。そして、去年は照明の「準備不足：雷雨による中断と車のヘッドライト活用」、今回は「確認不足：ピストル信号通信システムの不備」というWエラーを犯してしまい心からお詫

び申し上げます。両方とも事前のチェックが甘かったと言わざるを得ません。去年の準備不足を今年も改善できず、日本陸連や参加選手の皆様方から「長野陸協」の態勢批判や信頼の失墜を招いてしまい心苦しい限りです。それでも、このような大会スタートのつまずきをご関係の皆様と競技役員が一丸となり克服し、選手の「好記録」創出のためにそれぞれの任務を遂行し大会を終えることができました。心より御礼申し上げます。

ところで、この日本混成について、今回も昨年同様日本陸連をはじめ審判各部署から反省事項を頂いております。これらの中で危惧する点は、長野陸協理事の方々の中にも大会の趣旨、混成競技を日本選手権本体から分離させた日本陸連の方針、サブイベント種目の持ち方、さらには本大会の開催をとおして長野陸協の運営能力・審判能力の向上、そして混成競技者増加と

競技力の向上をいかに進めるかというビジョンについて、理解されていない方もおられるのではということです。共通理解が希薄なため、大会を押し進める組織力が高まらず大会の盛り上げにも繋がらないという現実があるかと思われます。これらのことは、審判編成の不満、広告収入の地区格差、或いは仕事の偏りなどからも容易に推察されます。



バックストレート側走路供用開始（シニア十種競技110mH）
信号通信システムは2日目（6月2日）順調に作動した

本大会準備運営には、筆者自身も非常にストレスを感じ、正直放り出したい気持ちで一杯でした。当然ながら平日この仕事をできるのは19時以降です。土日は指導している選手もあり、4月・5月は高体連と学連双方の大会にお世話になり時間のやりくりは本当に厳しいものがありました。

しかし、「日本選手権」を長野で開催できることは大変名誉なことで、県内の混成競技者も若干増加したように感じますし、最終種目終了後に行われる選手一丸となった挨拶はまさしくBig大会の影響か、あの光景に思わず微笑んでしまう方も多いと思います。後々、日本混成が「長野は良かった」と語られるように、今度こそ入念な準備と運営のノーマスを目指しラストスパートをしたいと思います。どうか皆様方の更なるご指導・ご協力をお願い申し上げます。

競技運営担当

実行委員 玉城 良二

長野での開催2年目を迎え、実行委員会より競技運営の重責を仰せつかりましたが、何分にも微力であり、経験も乏しく、不安ばかりのスタートでした。

そのような中で、今回は「競技役員の若返り」ということを目指し、将来の長野陸協を支えていく人材の発掘、育成を図りました。実行委員会や理事会の了承を得ながら、藤森審判長の寛大な心の元に、日本陸連の指導もいただきながらの競技役員の編成となりました。今ま

サブイベント参加者数（のべ人数）							
区分	性別	実施日	種目	H25(人)	小計	H24(人)	小計
選抜小学生	男子	1日目	100m	3-DS2	48	18	198
			三種100m	0			
			三種ボール投げ	0			
		2日目	三種走幅跳	0			
			4×100mR	4t12-DS1t		6t48	
			混合	2日目		4×100mR	
	女子	1日目	100m	9-DS3	24	48	198
			三種100m	0			
			三種ボール投げ	0			
		2日目	三種走幅跳	0			
選抜中学生	男子	1日目	100m	18	294	20	276
			四種100m	9			
			四種走高跳	9			
			四種砲丸投	9			
		2日目	200m	24		24	
			四種110mH	16t96		16t96	
	女子	1日目	100m	18	22	48	198
			四種100m	9			
			四種走高跳	9			
		2日目	四種砲丸投	9			
2日目	200m	24	12				
	四種110mH	9	16t96				
選抜高校	男子	1日目	100m	27	102	24	96
		2日目	200m	27		24	
	女子	1日目	100m	24		24	
		2日目	200m	24		24	
選抜一般	男子	1日目	100m	6	12	13	54
		2日目	200m	4-3DS		9	
	女子	1日目	100m	1		6	
		2日目	200m	1		5	
競歩	男子	2日目	5000mW	17	31	9	0
	女子	1日目	5000mW	14		6	
合計（延べ人数）					487	624	

t：チーム数、DS：棄権

で競技役員として活躍をされてこれ、今もなお情熱的にその任に当たって戴いている経験豊富な審判の皆様には大変申し訳ないという思いもありましたが、この機会を逃してしまいますと若手の育成は図れないという決意でした。幸い、信州大学や長野高専の学生審判員のご協力を得られたことには深く感謝申し上げます。また、各主任の皆様のご協力を得て「競技運営マニュアル」も何とか形にすることができました。

今大会を振り返ってみると、初日のスタートのトラブルや各係間での連携、用具の不備、審

判の服装や行動、態度のありかたなどの課題もありました。しかしながら、2日間を通して競技会が無事開催できたことは、長野陸協の「底ちから」を感じました。

来年度は長野での開催が最後になりますが、今までの課題を早い時期より洗い出し、計画的に競技運営の準備ができるようにしていかなければと感じています。

(この日本選手権の記事・写真は、長野市陸協会報「動き」に掲載したものです。ご了承下さい。

長野市陸協 理事長)

平成25年度 第29回全国小学生陸上競技交流大会参加報告

普及強化委員会 委員長 玉城良二 普及部長 橘 麗仁

● 期日：平成25年8月23日(金)～24日(土) ● 場所：神奈川・日産スタジアム

種目名	氏名	所属	記録	順位	指導者
6年 男子100m	小川 拓	開智 TFC (開智小学校)	13"09 (-0.4)	予 4 位	永原 達哉
6年 女子100m	田村 純菜	坂城 JAC (村上小学校)	13"41 (+0.3) 13"26 (+0.3) 13"27 (-0.5)	予 1 位 準 1 位 決 3 位	塩野入良夫
5年 男子100m	野沢 佑太	長野市陸上教室 (篠ノ井西小学校)	14"07 (-1.0)	予 5 位	芳川 千恵
5年 女子100m	中山 優芽	中野陸上クラブ (中野小学校)	14"34 (-0.8) 14"33 (+0.2)	予 4 位 準 6 位	田端 英樹
男子80mH	加藤瑠乃祐	軽井沢中部 AC (軽井沢中部小学校)	13"08 (+0.2) 13"33 (+0.4)	予 4 位 準 6 位	跡部 定一
女子80mH	淀 日南子	川中島 JRC (三本柳小学校)	13"40 (-0.9) 13"54 (+0.1)	予 3 位 準 6 位	田中 哲宏
男子走幅跳	藤村 知季	千曲 AC (千曲小学校)	4 m46 (+0.2)	決 23 位	藤村 久司
女子走幅跳	浅川 涼音	穂高南クラブ (穂高南小学校)	3 m68 (+0.7)	決 45 位	浅川 佳恵
男子走高跳	三守 遼星	塩尻西陸上クラブ (塩尻西小学校)	1 m25	決 38 位	百瀬 公則
女子走高跳	倉品 愛美	岡谷 AC (岡谷小学校)	1 m30	決 3 位	水出 一寛
男子 ソフトボール投	山浦 航	野 沢 (野沢小学校)	56m90	決 36 位	宮崎 忠
女子 ソフトボール投	武重 萌乃	WADA11AC (和田小学校)	56m60	決 12 位	武重 勝美
男子400mR	熊谷 弦 山崎 健太 桑原 健 林 泰希	辰野南 AC (辰野南小学校)	54"29	予 5 位	関 誠
友好100m	芝崎 匠	同上	15"58 (-0.3)	組 6 位	関 誠
女子400mR	寺坂 亜海 樋口 虹夏 太田 菜奈 加藤 愛理	コメント波田 (波田小学校)	55"52	予 5 位	藤森 雅弘
友好100m	牛丸 芳恵	同上	15"08 (-0.4)	組 6 位	藤森 雅弘

今年度も全国小学生陸上競技交流大会は、横浜日産スタジアムで開催されました。今年度は、開会式の選手宣誓という大役を、長野県選手団が仰せつかりました。フィールドのコンディションが悪く、スタンドでの開会式となりましたが、男子キャプテン小川拓君（開智陸上クラブ）と女子キャプテン田村純菜さん（坂城JAC）が、全参加選手を代表して、立派に選手宣誓を行ってくれました。開会式に臨んだ本県選手団の一人一人が、勇気づけられた瞬間でした。



開会式に臨む長野県選手団（日産スタジアムスタンドにて）



スクリーンに映し出される小川君と田村さん

競技面では、2種目で3位入賞を果たしました。

まず女子走り高跳びで、県大会で1m30をマークしていた倉品愛美さん（岡谷AC）が、本番でも見事に1m30を1回目でクリアしました。ここまでのすべての高さを1回目でクリアしてきたことが効いて、同記録が大勢出た中で、見事3位に入り上位入賞を果たすことができました。

もう一人は、6年女子100mの田村純菜さん（坂城JAC）です。昨年度、5年女子100mを制している田村さんは、順調に予選、準決勝を1位で通過し、決勝に駒を進めました。決勝では、惜しくも連覇はなりませんでしたが、向かい風の中を準決勝に続いて13秒2台の好記録をマークして、堂々の3位入賞を果たしてくれました。

その他の競技でも、トラックでは女子80mHの淀さん（川中島JRC）、男子80mHの加藤君（軽井沢中部AC）、女子5年100mの中山さん（中野陸上クラブ）が準決勝進出を果たしました。男子400mRの辰野南AC（熊谷君、山崎君、桑原君、林君）、男子6年100mの小川君（開智陸上クラブ）は、予選突破はなりませんでしたが、それぞれチーム新、自己新をマークして、全国の舞台で力を出し切ってくれました。フィールドでは、女子ソフトボール投げの武重さん（WADA11AC）が、最後の3投目に自己新の56m60を投げ、入賞まであと一步と迫りました。



塚原直貴選手より激励の言葉をいただく。



女子6年100m表彰：田村純菜さん



女子走り高跳び表彰：倉品愛美さん

十分に実力を発揮できず悔しい思いをした選手もいたと思いますが、長野県選手団の仲間をはじめ全国各地からの参加者と交流し競い合った経験は、一人一人の選手の皆さんにとって、とても大きな財産となったはずです。今回、表彰プレゼンターを務めた、北京五輪400mリレー銅メダリストの塚原直貴選手（富士通：岡谷市出身）が、競技終了後に本県選手団に激励の言葉をかけにきてくれました。塚原選手の言葉にあったとおり、今回の全国大会参加を一つの通過点として、この素晴らしい経験を、これからの競技・スポーツ・学校生活に生かして、さらに成長して行ってほしいと思います。全国大会参加にあたり、ご指導・ご協力いただいた各チームの指導者・保護者の皆様、長野陸協の関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

第66回長野県陸上競技選手権大会 フライング発失格に関連するコメント

スタートチーム 小川 淳

長野県陸上競技選手権大会は、「不正スタート1回で失格」を適用する大会でしたが、100mで2人、400mで1人、4×100mRで1チームを、失格とさせていただきました。

いずれも、「競技者は、最終の用意の姿勢をとった後、信号器の発射音を聞くまでスタート動作を開始してはならない。」（日本陸連競技規則第162条6）に抵触し、発射音前に足がスターティングブロックのフットプレートから離れるか、または手が地面から離れてしまったものでした。日頃から発射音を聞いてからスタート動作を開始する練習を行っておいて下さい。

今回の大会では、“On your marks”の時、適切な時間の範囲で「位置についての姿勢を取る」選手が多く見受けられ、選手のスタート技術の向上を感じることができました。

反面、“set”の時、「腰を遅く上げる」「一旦静止した後で動く」選手がまだまだ見受けられます。一旦静止した後に多いのは、a) 膝を中心とした脚がびくっと動く b) 身体が沈み込む c) 身体が前に動き出す といった行為です。これらの行為は全て【警告】の対象となります。

今回のように「不正スタート1回で失格」を適用する大会では、同じ競技者が2回の不適切行為を行うと【不正スタート】で失格となります。【警告】が多く出ると、そこまで維持してきた各選手のモチベーションにも影響が出てきます。

English command “On your marks” “set” が適用されるようになってから、“set”の後、腰が上がって静止するまでの動きが早くなっています。全ての選手が適正で、気持ちよくスタートができるよう、“set”で一旦静止した後は動かないという練習も積んでおいていただきたいと思います。



同大会のスターター審判長を務めた小川淳さん

2013 東京国体 長野県選手団成績

(日本陸連発表/まとめ 強化担当副理事長 内山)

氏名	競技	レース	順位	記録	風	コメント	所属	日付
宮坂 楓	成年女子 三段跳	決勝	1	13m02	0		横浜国立大	10月6日
原 奈津美	少年女子共通 棒高跳	決勝	3	3m55			上伊那農高	10月5日
内山 成実	少年女子共通 800m	決勝	4	2:08.96			長野吉田高	10月5日
		予選3組	3	2:11.41				10月4日
太田 朗	成年男子 走幅跳	決勝	5	7m48	0.3		ライフメッセージ	10月4日
藤澤 勇	成年男子 10000mW	決勝	5	40:36.01			ALSOK	10月6日
高橋 涼太	少年男子共通 5000mW	決勝	6	20:52.40			豊科高	10月7日
大和 千秋	成年女子 10000mW	決勝	6	48:06.83			飯田病院	10月7日
早川 恭平	成年男子 110mH(1.067m)	決勝	6	14.03	-1.2		早稲田大	10月7日
		予選1組	2	13.95	-0.9		早稲田大	10月7日
松下 優太	少年男子B 200m	決勝	8	22.22	-1		松川高	10月5日
		予選5組	3	22.33	-0.8		松川高	10月5日
		準決勝1組	4	22.23	-0.2		松川高	10月5日
關 颯人	少年男子B 3000m	決勝	8	8:30.32			佐久長聖高	10月8日
		予選1組	1	8:31.24				10月7日
長野	成少男子共通 4×100mR	決勝	5	40.35				10月8日
		予選2組	1	40.07				10月6日
		準決勝2組	2	40.31				10月7日
岩田 晃・長谷川 寛・松下 優太・塚原 直貴 ライフメッセージ・松本深志高・松川高・富士通								
塚原 直貴	成年男子 100m	予選1組	3	10.65	-0.9		富士通	10月5日
		準決勝2組	6	10.65	-1		富士通	10月5日
長谷川 寛	少年男子A 100m	予選1組	3	10.87	-0.7		松本深志高	10月4日
		準決勝1組	7	10.88	-0.1		松本深志高	10月4日
宮崎 琢也	少年男子A 走幅跳	決勝2組	8	7m12	0.3		松商学園高	10月5日
		決勝	12	7m12	0.3		松商学園高	10月5日
手塚 将弥	少年男子共通 800m	予選1組	5	1:54.21		予選全体で13番目	東海大三高	10月4日
今井沙緒里	成年女子 100m	予選1組	4	12.07	0.5		鈴波	10月5日
		準決勝1組	5	12.15	-1.2		鈴波	10月5日
瀧澤 彩	成年女子 400mH(0.762m)	予選2組	4	1:00.28		予選全体で10番目	慶應義塾大	10月4日
中島 未歩	成年女子 ハンマー投 (4.000kg)	決勝	12	51m59			中京大	10月4日
鈴木 千穂	少年女子A 100m	予選2組	6	12.69	-1.7	予選全体で29番目	長野吉田高	10月4日
金田 華実	少年女子B 200m	予選3組	5	25.79	-1.3		野沢北高	10月5日
塩崎 葵	少年女子B 1500m	予選1組	6	4:33.05		予選全体で16番目	長野東高	10月4日
小林 英和	少年男子A 400m	予選2組	2	48.42			高遠高	10月6日
		準決勝2組	7	48.73			高遠高	10月6日
矢ヶ崎 奨	少年男子A やり投 (800g)	決勝	26	53m07			上田東高	10月6日
芋川 駿	少年男子共通 走高跳	決勝	17	1m97			長野吉田高	10月6日
井口 華穂	少年女子共通 やり投 (600g)	決勝	10	47m07			市長野高	10月6日
清水 泰地	少年男子B 走幅跳	決勝1組	10	6m65	-0.3		丸子修学館高	10月7日
		決勝	17	6m65	-0.3		丸子修学館高	10月7日
長野	成少女子共通 4×100mR	予選5組	6	47.36				10月6日
		宮澤 有紀・鈴木 千穂・金田 華実・今井 沙緒里 富山大・長野吉田高・野沢北高・鈴波						
高森 建吾	少年男子A 5000m	決勝				欠場	佐久長聖高	10月6日
山本 瑞	成年女子 800m	決勝				欠場	中央大	10月6日

天皇杯・皇后杯とも16位

入賞数男7, 女4

H24 天皇杯 31位 36点

皇后杯 40位 15点

入賞数男6, 女2

天皇杯 男女総合得点			皇后杯 女子総合得点		
1位	146	東京	1位	81	東京
2位	141	静岡	2位	72	京都
3位	125	京都	2位	72	静岡
4位	120.5	埼玉	4位	64.5	埼玉
5位	87	北海道	5位	50.5	群馬
6位	86.33	神奈川	6位	50	新潟
7位	82	兵庫	7位	49	兵庫
8位	82	千葉	8位	48	大阪
9位	81	愛知	9位	41	愛知
10位	79.5	群馬	9位	41	北海道
11位	71	大阪	11位	39	岩手
12位	65.5	三重	12位	38	岐阜
13位	59	福岡	13位	37.5	三重
14位	58	新潟	14位	36	福島
15位	57.5	岐阜	15位	33	神奈川
16位	52	福島	16位	32	長野
16位	52	長野	17位	27	石川
18位	51	岩手	17位	27	鹿児島
19位	49	広島	19位	26	沖縄
20位	47.5	長崎	20位	25	岡山

第2期決算 対前年度比較

(単位：円)

【収入の部】			
	第2期	第1期	前年比較
1. 基本財産運用収益	189	0	189
2. 登録料受入収益	9,703,045	29,400	9,673,645
3. 分担金受入収益	1,094,200	0	1,094,200
4. 受取委託金・助成金	13,705,000	0	13,705,000
5. 事業収益	17,248,284	1,315,000	15,933,284
6. 雑収益	376,485	730	375,755
経常収益計	42,127,203	1,345,130	40,782,073

【支出の部】			
	第2期	第1期	前年比較
7. 事業費	30,981,704	1,371,896	29,609,808
8. 管理費	8,001,871	338,961	7,662,910
経常費用計	38,983,575	1,710,857	37,272,718
当期経常増減額	3,143,628	△365,727	3,509,355
当期正味財産増減額	3,143,628	△365,727	3,509,355
一般正味財産期首残高	47,563,710	47,929,437	△365,727
一般正味財産期末残高	50,707,338	47,563,710	3,143,628

※注 「前年度」については、平成24年2月16日から平成24年3月31日迄の実績となります。